

# 物部川清流保全推進協議会「川本来の姿を取り戻すWG」要旨

日 時： 令和4年2月8日（火）13：30～15：30

場 所： WEB 会議

参加者数： 25 名

## 1 「川本来の姿を取り戻すために（素案）」について（協議）

事務局より、物部川本来の姿を取り戻すための取組である「多自然川づくり」「水生生物の生育に適した川づくり」の効果がさらに高まるよう、河川管理者、流域自治体の土木・環境分野の実務担当者の業務に活用するために作成した素案について説明を行った。

### 【主な意見】

- 表紙に使用している写真は、より川本来の姿を現す写真に差し替えた方が良い。
- 土砂供給の正常化との記載があるが、土砂というよりは巨礫や玉石が必要ではな  
いか。また川虫の減少により必要な粒径の石が流されている問題がある。河床の安  
定が必要である。  
→土砂供給は濁水対策検討会で議論をしており、その議論の結果をまって素案に反  
映したい。
- ダム下流での川虫の再生は適度な粒径の礫が少なくなっていることが問題。ダムが  
あることにより、大きい石とシルトだけで中間の礫が無くなり、粒径が極端になっ  
てきている。また、シルトによって石と石の間が目詰まりを起こし、水生昆虫の生  
息場所がなくなっているところもある。
- 近年の豪雨の影響でストックされていた土砂を使い果たした状況である。下流部へ  
の土砂還元（質と量）は今後検討していかなければならない。
- 河床材料をどうするかといった議論は濁水対策検討会である一定議論されているが、  
ダムの上流でも同じことが起きている。砂防堰堤などの河川横断物で必要な石が供  
給されておらず、河床低下で護岸が壊れるといった現状もあり、上流でも失われた  
河床材料をどうするか議論が必要。
- 細かなところはバージョンアップが必要ではあるものの、この素案は良く出来てい  
る。物部川だけで使用するのはいらない。県内全ての河川で使用してほしい。  
各土木事務所の担当者がすぐ手に取ることが出来るよう冊子にしてはどうか。
- 素案では各所に「配慮すること」との記載があるが、誰が配慮するのかが問題。議  
論も必要だが、現場の担当者が学ぶ勉強会、特に生き物のことを学ぶ機会が必要。  
それによって設計・施工する担当者の意識が変わってくるのが重要。また、治水  
の問題との合体も必要。
- 勉強会開催は成果であり、それによって変化が発生する効果を意識することが重要。
- この素案はぜひ普及して欲しい。
- 公共事業における地質分野では、専門家がアドバイスできる技術顧問のような方を  
発注者が雇用するシステムを提案している。物部川においても生物分野に詳しい人  
が WG メンバーも含め多数いるのでアドバイスを求める仕組みが有れば良い。
- 流域治水の時代だからこそ環境が大事である。治水と環境の更なる両立が必要。

- P8のフローは設計・施工・維持管理の記載しかない。本来は調査と計画の記載が必要だが、設計と施工のみの記載とするのであれば、この素案では設計と施工に焦点をあてているといった位置づけを明確にする必要がある。
- WGメンバーは川のことをよく知っている方がそろっている。WGで出た意見を集約し中長期目標につなげていくといった手法もあるのではないか。
- 物部川以外でも安田川や仁淀川支流（上八川川）で事例として適当と思われる工事を実施しているので事例に加えて欲しい。土木部では勉強会を開催するなど担当者への意識付けが必要との認識をしている。
- 直轄工事でも担当者の多自然川づくりの意識醸成が必要と認識をしている。勉強会の開催について事務局と相談しながら進めていきたい。
- これまでも河川委員会などで川本来のあるべき姿など議論して作成した経緯があるが、作成後活用されていない気がする。この素案は技術担当者のバイブルとして活用し、作成して終わりではなく、受け継がれていくよう留意してほしい。

## 2 活動の中長期目標について（協議）

事務局より総会で意見をいただいた中長期目標（案）の説明。

### 【主な意見】

- 多自然川づくりの指標について、箇所数ではなく施工延長のほうが適当ではないか。
- 施工者側として、改修事業と環境事業の両方が絡んでくるため長期目標の設定が難しい。所内でも検討したい。
- 河川環境の変化が目的であり、虫が増えた、アユが増えたなどもっとポジティブな指標が必要ではないか。施工箇所や施工延長の数値だけでは、達成していないことだけに注視してしまうのではないか。
- 生物の指標として鳥類（越冬ツバメなど）などどうか。エサとなる川虫が少ないので今年は物部川ではなく他の河川に行っている。水生昆虫は川魚だけでなく野鳥のエサとなっており、その観点から多自然川づくりの指標に使えるのではないか。
- 上流域の水辺林の整備状況など、地図に落とし込んでいって理想的な水辺林が増えてきているかどうかなどが、指標として使用できるのではないか。水生昆虫の生育には良好な水辺林の環境が重要。
- 上流のべふ峡では皆伐が増えてきている。その後の植生の変化などのモニタリングも必要。  
→山の保水力 WG で議論していきたい。

### 【WG 検討結果】

- 素案は現在の知見で作成したものであり、総会の承認に向けて WG で意見のあった内容を整理する。
- 素案が受け継がれていくよう随時バージョンアップを図るとともに、施工にあたっての問題点など情報共有を図っていく。また事例集も増補といった形で今後集約する。
- 技術職員向けの勉強会開催を企画するなど、現場への周知を重視する。